

「ザ・スパイラル」 自動車館



名称：
SAIC—GM 自動車館
デザイン・コンセプト：
科学と未来のイノベーション
テーマ：
持続発展の可能な動力移動システム
ロケーション：
浦西万博会場

ハイライト1 スパイラルな外観

パビリオンは「スパイラル」——
上昇回転の動力をテーマに、大自然
と自動車工業を巧みに繋げている。
デザイナーは自動車のプロファイル・
デザインのテクニクをパビリオン設
計に取り入れ、上昇回転する勢いを
表現。限らないエネルギーの迸りを
感じさせる。スムーズなアウトライ
ンや工業的なエレメントが時代感と未
来指向を作り出すと同時に、自動車
のスピード、エレガンスを具現化して
いる。

ハイライト2

ダイナミックな表情

グラウンド広場においても高架スクエ
アにおいても、来場者は歩きながら移
り変わる建築物のアウトラインを楽
しむことができる。「天使の目」「ま
ぶしいステージ」「未来の窓」など奇



想天外なテーマ展示も、来場者にすばらしい体験を楽しんでもらえる。また、パビリオンの外観は最新の金属材料を採用し、クールな質感を演出。プロジェクトは、LED、光変性ガラスの使用により、変化に富み、テーマ性をも備えている。ダイナミックな表情の自動車館は躍動する命を得たようである。

ハイライト3

未来は手のひらに

パビリオンに入ると、見学者は最先端技術により作り出されたダイナミックなデジタル体験に完全に浸るだろう。時空を越え、2030年の自動車と都市交通システムを体験し、自動車のあるアーバンライフを堪能する。ここでは、人々の「自動車」と「道路」に持つ概念を徹底的に変え、交通渋滞も大気汚染も交通事故も存在しない世界が展望できる。

ハイライト4

エコ本位

パビリオンの設計は万博のエコ理念を取り入れ、上海地区の気候条件に合わせた建築設計においては省エネを模索した。新技術、新建材、新技法を大胆に採用し、建築の持続可能な発展に意義ある試みを行った。

2030年のヴィジョン 未来への道

2009年4月17日、上海自動車工業(グループ)総公司(SAIC)ーゼネラルモーターズ(GM)自動車館の定礎式が万博会場内で盛大に行われた。上海万博において自動車業界の唯一のグローバル・パートナーであるSAIC-GMは、自動車館の企画建設を重要な位置づけとしている。自動車館は、グローバル・パートナーが最初に建設を決めたパビリオンであり、企業館で最初に定礎式を行ったパビリオンでもある。

卓越した知恵

2006年11月28日、上海万博に貢献し企業の責任を果たすため、SAICとGMは連携して上海万博のグローバル・パートナーとなった。その後、双方がパビリオン案の募集を積極的に展開。SAICとGMは社内から中堅スタッフを結集すると同時に、GMの研究開発技術者チーム、同済大学や上海社会科学院

を代表とする学術団体など社会各界からも人材を招き、各界の知恵とパワーを借りて、自動車館の企画と設計にアイデアを出し合っていた。

特筆すべきは、設計案募集中にSAICとGMは「自動車工学」「都市学」「人類と社会学」「環境エネルギー学」などの分野の専門家を中国、アメリカ、ドイツ、日本から29名を招き、自動車業界の発展動向、未来における人類と車のかかわり、20年後の社会形態などについて大胆に予測してもらい、自動車館のテーマの確立の参考にした。

積極的な普及活動

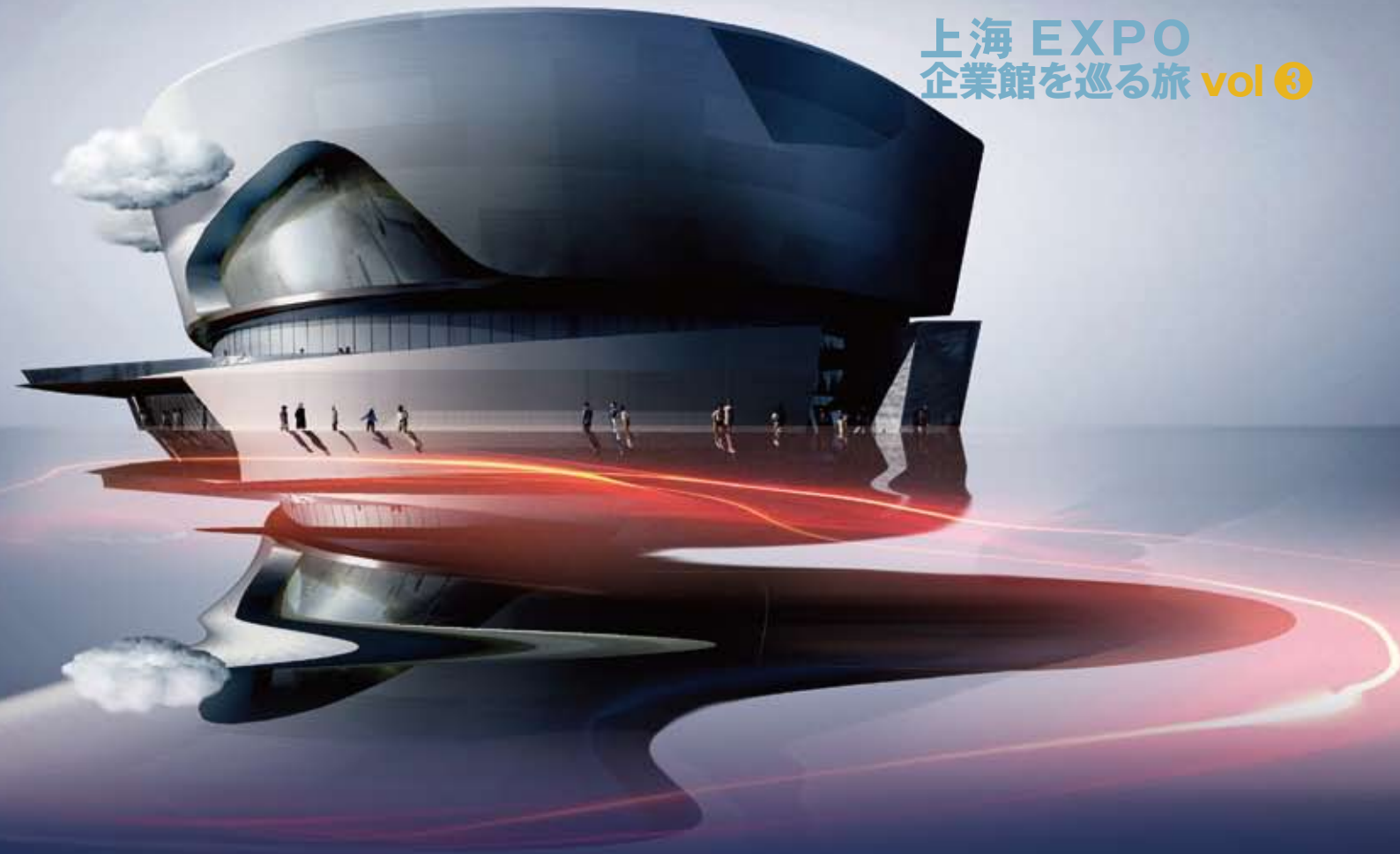
上海万博のグローバル・パートナーと

して、また中国の自動車工業をリードする企業の一つとして、SAICとGMは積極的に自動車館の建設作業を推し進め、同時に上海万博事務局に協力して、自動車館の計画準備作業と同じように万博のPRを重要視して積極的に展開している。

2007年7月、「第一財經」チャンネルの人気番組「頭脳風暴」の影響力を借り、SAICとGMはマスメディアを利用して、上海万博のPR活動を行い、上海万博のテーマに対する深い認識を視聴者と共有しようとした。また現場では、SAICの副総裁肖国普氏とGMの中国総裁甘文維氏は視聴者代表と万博に関する感想と体験について交流した。

また、SAICとGMは上海万博局





が主催した数多くの公益活動にも積極的にかかわり、万博情報を広めると同時に万博理念をいっそう深く人々の心にしみこませる。2008年12月、SAICとGMは万博局主催の「われわれはみんな万博人」という公益活動に参加し、万博の名義で、人々の参与、資源を大事にすること、環境を守ること、ポジティブで健康的なライフスタイルを通して、ともに上海万博のテーマを実践することを呼びかけている。

2009年3月、SAICとGMが「私が描く美しい都市」と題した万博ボスターの募集活動を主催し、上海万博のテーマを中心に、全国各地の小学生に想像力を存分に発揮させ、2030年の都市ヴィジョンを描くことを求めた。創意に満ちたこの活動は、子どもたちが未来に対する憧れに思いを馳せ、また全国規模で上海万博を知ってもらうのにも一役を買った。

独特の理念

1939年のニューヨーク万博で、GMは世界で初めて「高速道路」の写真を示した。その16年後に史上初の高速道路が誕生した。今、SAIC—GM自動車館は再び20年後の新しいライフスタイルを提示しようとして

いる。2010年上海万博期間中に、SAICとGMは未来型自動車の技術理念を示し、臨場感たっぷりの2030年のカー・ライフを体験させ、未来都市を楽しんでもらう予定だ。また、以下の未来社会の安全性、快適性、便宜性、人間本位の交通システムを実感させるだろう。

未来の自動車は環境にやさしく、より安全、知的で人間的である。

未来の都市交通は人々の外出スタイルと生活状態を大きく変える。

未来都市は歩行者、自動車、道路の調和のとれた共存を実現する。

自動車は人類の知恵の結晶であり、人々に「移動」の自由をもたらした。2030年、電気自動車と道路施設は人類が現在直面している環境問題と石油危機を徹底的に解決するだろう。車と人間、車と車、車と道路施設の間における円滑な情報交流は、交通を完全かつ効率的なものへと変えるだろう。発達した都市間交通は都市周辺の経済発展を促すに違いない。さらに注目されるのは、未来交通・運輸は人類のライフスタイルと生活状態を変えると同時に、「ベターシティ、ベターライフ」の意義を具現化すること。これらすべてがSAIC—GM自動車館が伝えたい趣旨である。